

海外の事例紹介

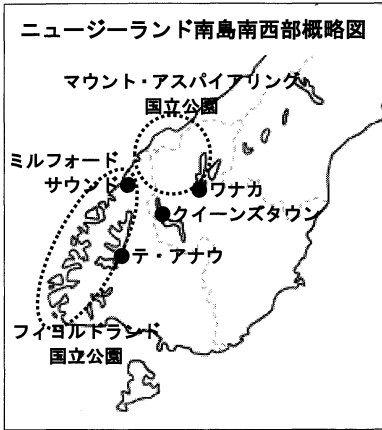
ニュージーランドにおける

自然とのふれあい施設

一級建築士事務所 トポラボ 神宮 孝

一. はじめに

ニュージーランド南島の南西にあるマウント・アスパイアリング国立公園およびフィヨルドランド国立公園を訪れる機会を得たので、海外の技術情報として、そこに整備されたビジターセンターやトラック（歩道）などの自然とのふれあい施設をビジターの視点で紹介する。



二. マウント・アスパイアリング国立公園

①DOC (Department of Conservation

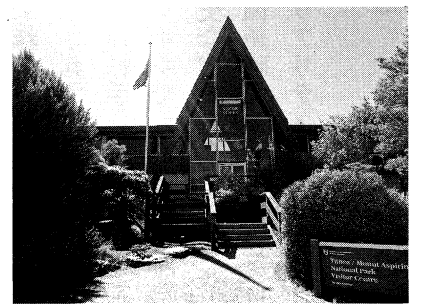
(自然保護局)マウント・アスパイア

リング国立公園ビジターセンター

クイーンズタウンから北東へ約一〇〇km、車で一時間三〇分、ワナカの街の入口部にある。当該国立公園の利用の中心となる施設で、周辺にはロブ・ロイ氷河トラックをはじめとする数十のトラック（歩道）等が整備されている。

建物は、面積五〇〇m程度、地形の高低差を利用した木造トラス二階建てである。二階に案内カウンター、展示室、物品販売コーナー、事務室、一階にアーカイブ&サーバー室、トイレが配置されている。一階と二階を結ぶエントランスホールはガラス張りになって

おり、ワナカ湖を眺望できる。二階のホールからは裏庭に出



DOCマウント・アスパイアリング国立公園ビジターセンター

られる。建物の周囲には樹木が植栽され、三〇台程度の駐車場、芝生広場、記名標識、樹名板、解説標識、誘導標識等が整備されている。

展示は、パネル展示が主体で、日本のビジターセンターと比べ簡素である。表記はすべて英語で、日本語のパンフレットが用意されていた。特に感心したことは、マオリの言葉・歴史・文化を丁寧に紹介していたこと、パネルで国立公園内の数十に及ぶトラックの紹介とコンディションが詳細に示されていたこと、掲示板に当日の詳細な天気図が張られていたことである。

物品販売コーナーでは、トランピング（トレッキングのこと）や自然に関する多くの文献、国立公園をほとんど網羅しているTOP

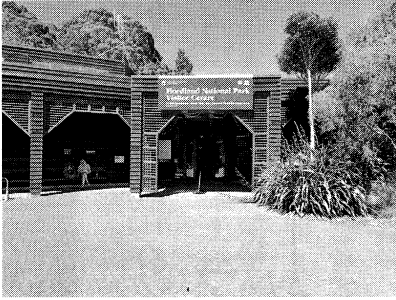
OMAP（二五万分の一および五万分の一地形図で日本の国土地理院が発行する地形図に相当）、登山用品、レトルト食品など、公園利用に必要なさまざまな品物が販売されていた。

案内カウンターでは三名のスタッフがディスプレイを見ながらビジターにトランピングの許可、カーヌーなどのアクティビティやホテルの紹介を行っていた。日帰りで歩くことができる歩道はないかと聞くと、車で五分ほどのマウント・アイアンを紹介され、パンフレットを頂戴し、水や食べ物を持っていくとよいことなど細かなアドバイスを受けた。もつとリーズナブルな宿はないのか」と詰め寄っていた日本人にも、スタッフの女性が笑顔で対応していたのが印象的だった。

②マウント・アイアン

街の東にある小高い丘で、イギリスのフットパスのように牧場内に歩道が整備されている。入口には、民間の牧場であることや自己責任で登ることなど記された注意標識と牧場の柵を越えるための階段が設置されている。歩道は、幅二m程度、羊が食べ残した灌木林

立公園の中心となる施設で、周辺にはミルフォードサウンドや



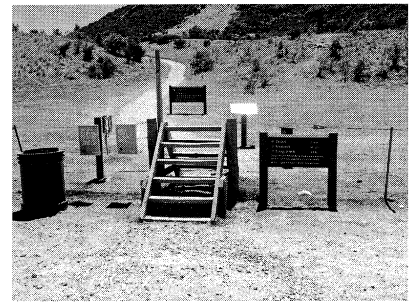
DOCフィヨルドランド国立公園
ビジターセンター

①DOCフィヨルドランド国立公園
園ビジターセンター
クイーンズタウンから南西へ約二〇〇km、車で約三時間、テナウの街の入口部にある。当該国立公園

三、フィヨルドランド 国立公園

四〇分、山頂には解説標識が設置され、ワナカ湖やマウント・アスパイアリングの山並みが確認できた。

内に敷設されている。一部に洗掘があったが、丁寧に補修されていた。山頂まで約



マウント・アイアン入口

ダウトフルサウンドといったフィヨルドがあり、ミルフォードトラック、ルートバーン・トラックなどの歩道が整備されている。ビジターセンターからはケプラートラック（六〇kmの周回ルート、一九八八年整備）に接続する歩道が設けられ、途中にタカヘなどの絶滅危惧種を飼育するテナウ・ワイルドライフ・センターがある。

建物や展示は、DOCマウント・アスパイアリング国立公園ビジターセンターと同様、公園利用のための情報発信や物品販売が充実していた。特に印象的だったことは、周辺に木々や草花が植えられ小川が流れていたこと、芝生広場で移動式のカフェがサンドイッチやドリリンクを販売していたことである。

②ミルフォードトラック

ミルフォードトラックはテナウ湖とミルフォードサウンドを結ぶ五三・五km、マオリが利用していたルートを一八八八年クインティン・マッキンノンらが開拓した歩道である。

ミルフォードトラックを歩くには、DOCの許可を得て歩く方法とツアーに参加する方法がある。

私はテナウからツアーに参加し、バスと船を乗り継ぎ、ミルフォードトラック



ミルフォードトラック入口

終点から一部のルートをガイドと共に歩いた。歩道の入口には、休憩室やガイドのための室がある建物がゲートとなるように設置されている。歩道は沢沿いの樹林内につけられている。路面は碎石で締め固められており、積雪や雨の多い地域であるが目立った洗掘もなく非常に歩きやすかった。渡渉部分にはトラス構造の木橋が架けられ、足元が滑らないように亀甲型の金網で床板を覆っていた。サインはいずれも英語およびピクトグラムで示されていた。

バスの運転手を兼務するガイドは、トレイルでも植物の名前や歩道の歴史などをレクチャーしてくれた。開拓時の遺構を見ながらの解説はリアリティがあった。

四、おわりに

今回紹介した施設は比較的規模が小さく簡素であった。しかしながら、施設は適切に配置され、自然景観と調和し、メンテナンスが行き届き、公園利用のためにさまざまな情報やアイテムが準備されており、そしてなによりスタッフや民間ガイドが公園利用のための幅広い知識や技能をもち、ホスピタリティーにあふれていた。また、訪問に当たり、アクセスやツアーなど事前にウェブ上ですべて確認・手配することができ、快適・安全にトラックを歩くことができた。現在、海外から多くの方々が日本の国立公園を訪れているが、同じように楽しむことができていのだろうか。

神宮 孝●じんぐう たかし
ランドスケープ計画・設計事務所／一級建築士事務所トボラボ主催。登録ランドスケープアーキテクト、一級建築士、技術士（環境部門、建設部門）。人と自然が共生する多様で豊かな場に活動している。